

説 教

Open Church Worship Service 北浜チャーチ

2021年9月26日(日)

黒田 禎一郎

主 題：「弱くても大丈夫です」

—神の贈物—

テキスト：2コリント人への手紙4章7-15節

### はじめに

- ・今日は、北浜チャーチの「オープン・チャーチ礼拝日」です。  
皆様が、本日の礼拝にご参加くださり大変嬉しく思います。そして皆様とともに、生ける神に礼拝をお捧げできますことを感謝しております。皆様の参加を歓迎いたします。
- ・ところで、日本は、いや世界は疫病「コロナ」によって、大変な事態となっていますね。日本では第5波の感染症の波が来ていますが、出口が見えないところに、この疫病の恐ろしさがあります。
- ・大阪では病院に収容できない患者さん対象の「緊急病院」が、大至急に設けられようとしています。医療の逼迫は近づいています。私たちはいつ時も速く、コロナ感染症が収束することを願っています。
- ・今回のような世界的レベルでの、大試練が襲ってまいりますと、私たち人間は本当に無力であることを痛感させられます。本当に極小ウイルスにさえ、勝つことができない存在であることを認めざるを得ません。
- ・その中で、ある方々は力を失い、勇気を失っておられるかも知れません。それは生きる目標が見えないからではないのでしょうか。私たち人間って、いったい何のために存在し、何のために生きているのでしょうか……。
- ・皆さん。聖書の中には不思議な言葉があります。  
**4:7 私たちは、この宝を、土の器の中に入れていているのです。それは、この測り知れない力が神のものであって、私たちから出たものでないことが明らかにされるためです。**
- ・聖書は、人間は壊れやすい土の器にすぎない存在ですが、そこには宝が秘められていると教えています。
- ・土の器とは、陶器（瀬戸物）で作られた器のことです。  
特徴：①弱く、壊れやすい  
②中身が見えにくい（口から覗いても）  
③昔は高価な宝を入れた⇒保存が長期可能

『例 話』: ユダヤ人の宝: 死海写本

- ・「20世紀最大の考古学的発見」と呼ばれた死海写本が、1947年、イスラエルの死海近くの洞窟で発見されました。それは旧約聖書の（全巻36巻）の一部が巻物として、土の壺の中で大切に保存されていました。
- ・中でも、イザヤ書全巻（1～66章）が発見されたのでした。  
興味深いのは、その発見されたイザヤ書は今私たちが手にしているイザヤ書と、なんら変わるところがなかったことです。聖書の「信ぴょう性」が証明された、20世紀最大の発見でありました。
- ・ユダヤ人にとって、旧約聖書は神の書であり大変貴重です。  
彼らは敵陣に追われて逃げて、死海近辺に来たと思われています。そこで、自分たちが大切にしていた聖書（当時は巻物）を、土の器である「壺」に入れて、洞窟の中に隠していたのでした。
- ・そしてそれから、2千数百年経過し偶然にも発見されたのでした。  
ここで覚えていただきたいことは、聖書は、次のように述べています。  
①私たち人間を器とおいていること。  
②器の中には宝があると述べていること。
- ・今日は、聖書から次の2点考えてみましょう。

### 大切なポイント

#### 1. 器の中身は見えにくい

- ・壺や器の中身は、外側からは見ることはできません。それは、まるで人の心の中のようなです。今の時代は、レントゲン撮影、CT撮影、MRI撮影などで身体の細部に至るまで、その詳細を見ることができます。しかし、心の中までは見ることはできません。
- ・聖書は、人の心の中には何があるか次のように語っています。**マタイ福音書 15:18** しかし、口から出るものは、心から出て来ます。それは人を汚します。**15:19** 悪い考え、殺人、姦淫、不品行、盗み、偽証、ののしりは心から出て来るからです。
- ・器の中は、本当に見えにくいものです。まさしく、人の心の中には、悪い思い、悪い考えがあります。それが社会には蔓延しています。毎日、犯罪や事件が続いて起こっています。それはみな、すべて私たちの内側（心）から外に出てくるものです。
- ・しかし神はご覧になっておられます。神は世界をお造りくださった創造者です。そして、私たち一人一人の心の中深くまでご覧になっておられます。何より一番よく知っておられるお方です。

- 天地をお造りくださった神は、人間に良心を与えられました。良心とは「何が善であり、悪であるかを知らせる道徳的意識」です。ですから、悪いことを考えるならば、良心は痛みを感じます。はじめは少しの痛みであってでも、それが続いていきますと慣れてしまい、つまり悪が増大してしまいます。
- 聖書は、人は善であれ、悪であれ、必ず精算する日がくると教えています。私たちは悪が精算されないとするならば、不愉快な思いになるでしょう。自分のことは横に置いて、社会や他人の悪が精算されないとすると、腹立たしくさえ思うものです。
- 聖書は、次のように教えています。 [ガラテヤ人への手紙6章](#)  
6:7 思い違いをしてはいけません。神は侮られるような方ではありません。人は種を蒔けば、刈り取りもすることになります。
- 私たちが覚えた第一のポイントは、器の中身は見えにくいものですが；
  - ① 器の奥深くまでご覧になる神がおられること。
  - ② その神は公正なお方であること。
 神は善であれ、悪であれ、裁かれるお方であります。神は最高権威者です。
- しかしながら、神は私たちを裁くことが目的ではありません。いいえ、神は私たち一人一人を祝福することを願っておられます。聖書は、神は愛です。と教えています。神は私たちの人生に宝を備えておられるのです。それが次にお話したい第2のポイントです。

## 2. 器の中に宝が入れられる

### 1) 一番大切な宝

- 神は、私たちに「宝」を備えてくださいます。  
「宝」：それはあなたにとって、どんなものでしょうか？  
金銀財宝でしょうか？ それも素晴らしいものですね。
- しかし、死ぬ時には持っていきません。どれだけの金銀を持っていても、名誉や地位を持っているとしても、死ぬときに持っていきません。すべて置いていかなければなりません。では、「宝」とは何でしょうか？  
一番大きな「宝」とは⇒ 「永遠のいのち」です
- 神は、その「永遠のいのち」である「宝」を私たちに与えてくださるお方です。いや、神しか与えられないものです。永遠とは神の領域です。人間は有限的存在ですが、神は無限の存在ですから永遠なるお方です。つまり、器の中に「永遠のいのち」である「宝」をお与えくださるのです。
- 愛する皆さん。あなたという器の中に、「宝」が入るならば、永遠の命、平安、

慰め、喜び、感謝等与えられます。

## 2) では、どうすれば良いでしょうか？

- ・私たちは皆、人生で宝を得たいと願っているでしょう。2点申し上げたいと思います。

### ① 正直に神の前に立つこと

- ・正直とは誠実のことです。誠実は、私たちの人間関係で最も大切なものです。誠実な人を裏切ること、普通できないものです。ましてや神の前で、私たちが正直で、誠実であるなら、神は私たちにも誠実であられます。
- ・正直に神の前に立つとは、どういうことでしょうか。まず出来ることは、心を静めて神の書である聖書の前に身を置いてみることです。そして、あなたの言葉で神に祈ることです。祈りは呼吸のようです。吸って、はいて呼吸するように、神の前で呼吸（祈り）をすることです。
- ・正直に神の前に立つならば、何が見えるでしょうか？それは不完全な自分の姿です。悪い考えをいだいたこと。悪い行いをしてしまったこと。人を悲しませたこと、人を傷つけてしまったこと。人を裁いてしまったこと。法律上の罪は犯さなくても、人には良心があります。
- ・罪とは本来「的はずれ」という意味です。神が造られた人間は、本来神と言う的に向かって歩むべき存在でした。しかし、私たちはその神について教えられてきませんでした。聞くこともありませんでしたし、知ろうともしませんでした。ですから、神という大切な的から外れしまいました。すなわち「的はずれ」

⇒ それが罪なのです。聖書は語ります。

6:23 罪の報酬は死です。しかし神の賜物は、私たちの主キリスト・イエスにある永遠のいのちです。ローマ

- ・しかし、神は私たちの罪をイエス・キリストの上に置かれました。そして十字架の上で尊い御血を流してくだり、罪を洗い清めてくださいました。

第一ヨハネの手紙

1:9 もし私たちが自分の罪を告白するなら、神は真実で正しい方ですから、その罪を赦し、私たちをすべての不義からきよめてくださいます。

### ② 神を信頼すること

- ・「弱くても大丈夫です」。生きられます。 [ローマ人への手紙 10章](#)  
10:11 聖書はこう言っています。「この方（神）に信頼する者は、だれも失望させられることがない。」
- ・もう自分の力で頑張らなくても結構です。神が与えてくださる「宝」は、頑

張って得るものではありません。それは神からの贈り物です。神の前に正直に立ち、そして神を信頼することです。信頼するとは、信じることです。神はその人に「永遠のいのち」を贈り物として与えてくださいます。なんとという幸いではありませんか。

{例 話} 証し : Oliver Schalk

- 約 2 千年前、初代教会時代にサウロという男がいました。彼は熱心なユダヤ教徒で、クリスチャンを手当たり次第に捕らえ、迫害を加えていました。しかし、その彼が復活のイエスに出会ったことによって、彼の人生は一転しました。劇的変化を経験した彼は、新約聖書時代の偉大な指導者のひとりとなった。現代にも、そのような男がいます。
- しばらく前、旧東ドイツ (Chemnitz ケミニッツ:旧カール・マルクス市) で、キリスト教大伝道会が開催されました。その時、Oliver Schalk (オリバー・シャルク) 氏は会衆の前ですばらしい証しをしました。
- 彼は旧東ベルリンで育った人でした。教会の日曜学校には通っていましたが、神と聖書にはまったく無関心でした。彼が 10 歳の時、両親は離婚しました。その後、彼は旧東ベルリン中心にある広場、Alexanderplatz (アレキサンダー・プラッツ) で、反政府活動に参加していました。
- 警察の自宅捜索で、当時のホーネッカー東独書記長を風刺する本が発見されて逮捕されました。彼は 17 歳にして、1 年の実刑判決を受け少年院へ。そこで他の少年たちから暴力を受け、憎悪心が浮上してきました。
- 出所後、彼はベルリン・サッカーのファンクラブへ入会しました。しかしサッカーの試合はどうしても良かったのです。目的はフリーガンとして、試合の後半 (終わりに近く)、騒動を起こすことが目的でした。そして対戦チームファンたちに暴力で襲いかかり、彼は手のつけられない男となってしまいました。
- 1990 年代に入り、彼は居酒屋を友人と共同経営し始めましたが、そこはアルコールと麻薬常習者の溜まり場となってしまいました。またオートバイ族の溜まり場ともなってしまいました。そこであるバイカー (オートバイク族) と何時間も話し合いました。最後にそのバイカーは彼に、一冊の聖書を渡しました。
- 酒屋経営は悪化したので、彼は新たな資金源獲得を必要としていました。自暴自棄となった彼は、医師の元へ行き、労働不可能という証明をもらおうと、「Depression」(憂鬱症)を装いました。その結果、医師は彼には治療が必要と診断し、彼を療養所へ送りました。彼は 6 週間、そこで「Depression」(憂鬱症)を装うこととなりました。

- ・ 彼は自分で自分を、もうどうしたらよいか分からなくなってしまいました。その時、彼は神をテストし祈ったと言います。⇒「神が本当に実在するなら、私の前に姿を現して欲しい」と。彼は目的もなく、森の中を何時間も歩き、走りました。その時ですが、森の所々に聖句が入った小箱が置かれていたのが目に入りました。
- ・ ある聖書学校が森を散策する人のために、備えた小さな箱でした。彼は何げなく、その箱から聖句入りカードを手にししました。それは「マイナスからプラスへの人生」、という表記のトラクトでした。その時、彼の体に強い電流が走ったことを感じました。ローマ人への手紙6章  
6:23 罪の報酬は死です。しかし神の賜物は、私たちの主キリスト・イエスにある永遠のいのちです。
- ・ 彼にはもうはっきりしていました。神が自分に語られたと確信しました。暴力、麻薬、犯罪を繰り返していた彼が、森の中で、しかも一人で神にふれることができました。
- ・ 彼はその場で神に祈りました。すると、神が自分の内側にお入りくださったと分かりました。そして、その時彼は、自分がこれまで暴力を重ね、迷惑をかけた人々の顔が浮かんできました。そこで神の前に赦しを願いました。すると、彼の人生は一転しました。
- ・ 十字架にかかり、死んで復活されたキリスト・イエスが彼を赦してくださったからです。彼は神の赦しを経験しました。そして彼は、自分の人生を神に捧げる決心をしました。ハレルヤ！
- ・ 彼は人生の奇跡を味わいました。⇒彼は「神の測りしれない力」を経験しました。彼は神によって変えられました。神が彼の「宝」となりました。感謝！
- ・ 彼は自分の宝であるイエス・キリストに出会い、そして人生にイエス・キリストを迎え入れました。彼が数万人の会衆を前にして語った証しは、旧東独の街 Chemnitz(ケミニッツ)、昔は Karl Marx City(カール・マルクス・シティ)でした。この大会は欧州各地の約1, 500箇所の中継され、大きな反響がありました。
- ・ 愛する皆様。私たちは弱くても大丈夫です。今は力を失い、疲れておられるかもしれません。しかし大丈夫です。イエスはあなたに最高の宝である「永遠のいのち」をお与えくださいます。
- ・ イエスは、そのために十字架にかかれ、そして三日目によみがえられました。死に勝利されたお方が、あなたの人生にお入りくださるのですから、もう大丈夫なのです。

## ま と め

テーマ : 「弱くても大丈夫です」

—神の贈物—

- ・今朝、神は私たちにお語りくださいました。神は私たちを愛しておられます。そして、「永遠のいのち」という宝を与えようとしてくださっています。神の願いは、私たちに「永遠のいのち」与えることです。
- ・しかし、そこに条件があります。
  1. 神の前に正直に立つこと
  2. 神を信頼すること
- ・最後に、次の聖書のみことばを持って終わります。

私たちは、この宝を、土の器の中に入れていたのです。それは、この測り知れない力が神のものであって、私たちから出たものでないことが明らかにされるためです。 2コリント4:7

\* God bless you!